

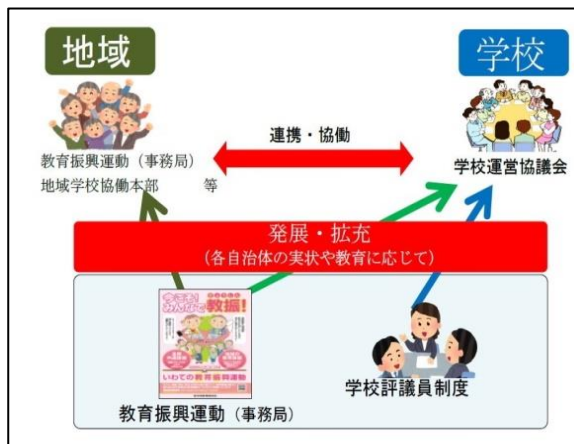
1 現在の学校評議員制度や教育振興運動はどうするのか？

① 学校評議員制度について

学校評議員制度の役割は学校運営協議会で担うことができることから、学校評議員に地域のボランティア、各種団体の代表等を加えて構成を充実させ、学校運営協議会を組織する方法も考えられます。 ※規則にもよりますが、当初は少なめの人数で組織し、徐々に増やしていく方法も考えられます。

② 教育振興運動について

本県では、教育振興運動に取り組んでいます。地域に根ざし、多様な地域学校協働活動を展開してきた教育振興運動の組織を活用して、学校運営協議会に発展させたり、引き続き地域学校協働活動を進める組織として改めて位置付けたりする方法も考えられます。



教育振興運動は、県内全ての市町村で取り組まれています。その特色は市町村によって幅があります。学校運営協議会の組織や教育振興運動との関係性等については、各市町村が状況を見極め、主体的に検討・判断していくこととなります。

2 コミュニティ・スクールで期待される効果は？

<p>【幼児・児童・生徒にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の充実・学びの広がり ○様々な方々とのふれあいによる成長 ○達成感や自己肯定感の高まり ○防犯、防災等の対策による安心安全な生活 <p>など</p>	<p>【保護者にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域で子供が育てられていることへの安心感 ○学校や地域への理解の深まり ○地域の方々とのつながりの深まり・広がり ○PTA 活動・教育振興運動の充実 <p>など</p>
<p>【地域にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の成長に関わる喜び ○経験を生かすことで得る生きがい ○地域の方々とのつながりの深まり・広がり ○地域の防犯・防災体制等の構築 <p>など</p>	<p>【学校にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営へのバックアップ ○多様な人材・組織との協働 ○教職員の地域理解への深まり ○地域との組織的な連携・協働体制の継続 <p>など</p>



子供たちや学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、子供たちや地域の輝く未来を創るためには、これまで以上に「社会総掛かり」での対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要であると考えられます。

それを実現可能にする仕組みの一つがコミュニティ・スクールです。ポイントは、「みんなで目標や成功体験を共有する」ことです。



「コミュニティ・スクール通信」第1号から第3号の内容は、令和2年3月に作成した周知用リーフレット「地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える『コミュニティ・スクール』のあらし」によるものです。「まなびネットいわて」のホームページに掲載しておりますので、御参照ください。

本通信は下記ホームページに掲載しています。(※ダウンロード可能)

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。